

日本福祉大学

山形最上オフィス通信

第20号 発行日：2016年10月11日

目次

- 1) 地域包括ケア推進講演会
- 2) 最上町フィールドワーク
- 2) 同窓生の紹介
- 3) 同窓会活動
- 4) 入試情報

「安心して暮らし続けられる最上町にするために」 地域包括ケア推進講演会を開催しました

山形県最上町では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を進めています。地域住民の参加によるサロン活動などの生活支援サービスの充実や高齢者の社会参加、介護予防などの健康づくり、地域住民の役割を確認し、地域での新たな支え合い・助け合い活動の仕組みづくりを目的として、地域包括ケア推進講演会を開催しました。

講演会は7月26日(火)、みつざわ創造館らいず(旧 満沢小学校)にて、本学社会福祉学部の小松理佐子教授を講師に迎え行われました。入口では元気の良いお母さんたちが出迎えてくれました。満沢地区の「たらふく工房」さんは、小学校で収穫した新鮮野菜の直売に手作り料理を振る舞ってくれ、横川地区の「きらり横川」さんでは、漬物やジャムの販売のほかアスパラガスを一本まるごと蒔いたどどん焼きを来場者のみなさんに振る舞っていました。講演会場の2階にあがると、会場いっぱいの人・人・人。平日の開催でしたが、なんと100名を超える町民のみなさんにお越しいただきました。



「安心して暮らし続けられる最上町にするために」というテーマで講演が行われました。高齢者の単身世帯・夫婦世帯が増加している町の現状、介護保険法の改正により地域で高齢者を支えることが求められていると訴え、「今の町には何が足りないのかを考え、10年後の町をどのようにしていきたいのか、自分たちの町を自分たちで創る意識が重要である」と語りかけました。名古屋市天白区の「お助けマン制度」や岐阜県高山市の冬期の生活支援制度などを紹介すると、そういった支援方法や共助体制があるのかと感心する反応が見受けられました。



講演会終了後は「たらふく工房」さんの活動や、上満沢のサロン活動の取り組みを健康福祉推進員より紹介する時間も設けられました。

小松教授は10年以上最上町の福祉に携わっているためお知り合いが多く、講師退場の際も「小松先生！全然変わらないですよにゃ〜」と多くの方々に囲まれておりました。最上町の特徴あふれる大変あたたかい一日となりました。今回の講演がこれからの町について考えるキッカケとなり、今後の活動に活かしていただければ幸いです。

ご参加いただいた町内のみなさん、ありがとうございました。

社会福祉学部フィールドワーク ～自治体と連携しモデル集落ワークショップを行いました～

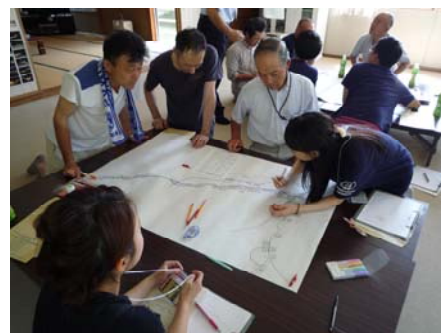
8月7日(日)～8日(月)の2日間、社会福祉学部の学生17名が最上町に来町し、フィールドワークを行いました。引率は小松理佐子教授です。

地域包括ケアシステムの構築・実践として、健康福祉課・社会福祉協議会・地域包括支援センターの職員と一緒に、各集落での支え合い活動の聴き取りと生活支援のワークショップを実施しました。除雪支援モデル集落として、黒沢・新田・清水町の3集落、生活支援モデル集落として上満沢の1集落を対象とし調査しました。地図を広げて変更箇所の修正を行い、空き家や避難所、高齢者世帯に支援が必要ではないかと思う家などを確認し合いました。学生は初めて聴く訛りに苦戦しながらも、隣だけでなくご近所さんの状況をきちんと把握し協力し合う姿や住民の結束力の強さに驚き感銘を受けたようです。

2日目は新庄北高最上校の生徒5名も加わり、交流しながら調査を進めました。

滞在中はほかにも、日福OBからUターン就職と現在の仕事・子育ての状況をお聞きし、まちづくり推進室からは町の総合戦略や移住定住支援について説明していただくなど最上町の取り組みを知る大変濃いプログラムで過ごしました。

学生からは、「自分の地元や大学周辺の福祉については知っていたが、全く知らない土地で行われている福祉活動、住民との交流を通じてニーズに合ったサービスを提供することの重要性和難しさを感じた。」「将来の進路の視野を広げるきっかけとなった。ただ町に住むだけでなくその町のために尽くせることができるよう成長したい。」「住民同士の繋がりが強く、相手のことを思い合える優しい町だと感じた。」「これからも最上町に関わっていきたいと思った。地域おこし協力隊として移住するのもいいかも考えた。」など様々な感想が寄せられました。今回の調査が地域包括ケアシステム構築の一助となり、また大学生や高校生にとってこの経験は今後の学生生活と進路に生きていくことでしょう。



▲ 除雪支援モデル集落（黒沢）での調査



▲ 生活支援モデル集落（上満沢）で発表

同窓生の紹介



今年3月11日(金)に「海の子 山の子 地球の子」という防災教育絵本が出版されました。原作を担当した里生海歩子さん(筆名)が自費出版され、児童文学作家である千葉留里子さんが表現や構成など制作協力されたそうです。岩手県在住の千葉さんは本学同窓生です。

人間は自然の恩恵を受けて生活をしていること、時には災害をもたらすことをわかりやすく伝え、「自然の力を正しくおそれることがだいじ」と説き、危険の兆しを見逃さず備えるよう、自然や命の大切さを諭す絵本となっています。

教育現場や家庭での防災教育に役立つと好評で、岩手日報や河北新報でも紹介されました。自然と共生する在り方、命を守る大切さを子どもたちに伝えます。

同窓会活動

【秋田県地域同窓会】6月18日（土）駅前あっちゃん

秋田県地域同窓会はお馴染みの「あっちゃん」。前年度の事業報告・今年度の計画案や役員改選について話し合わせ、また、先日行われた東北ブロック代表者会議と全国代表者会議に出席された桑原会長より報告がありました。4年生のUターン就職希望者への協力も話題となりました。いろんな方から飛び交う就職情報に、まさに日福の同窓生ネットワークを感じました。総会後の交流会では、夏なのに鍋が！不思議に思っていると、秋田では暑気払いとして夏にクジラ・ナス・水菜の鍋をいただくのだと教えていただきました。美味しい料理を食べながら、旧友との楽しい時間を過ごしました。



【山形県地域同窓会】7月2日（土）山形七日町ワシントンホテル

総会では前年度の報告・今年度の計画のほか、参加者を増やす取組みについて、反省点など意見交換しました。続いて「集いの会」がスタート。美味しい料理を味わいながら様々なプログラムで交流を深めます。今回は同窓生数名で日福巡りをした「名古屋への旅」DVDの上映もありました。通信教育部卒業生の「キャンパスに行ってみよう！」という希望が実現した旅。美浜キャンパス前で学位記授与のシーンや釈中キャンパス跡地での記念写真もあり、とっても素敵な内容でした。山形県のシンボルマークの「山」と「川」をイメージした記念撮影で会を締めくくりました。



【岩手県地域同窓会】8月21日（日）矢巾町活動交流センター やはぱーく

岩手県同窓会28年度定期総会は盛岡市の隣、矢巾町での開催となりました。総会では完成したばかりの「アフターセミナー研究会の活動報告書」が配布されました。被災後5年半となり、構造物などの「ハード面」は復興に向けた取り組みが進んでいる一方、「ソフト面」つまり被災住民の生活再建は十分な進展がないままとなっています。「東日本大震災の被災地の復興を目指す課程から学び、誇りに思うこと」と題した片方信也名誉教授による講話では、熊本の被災地に訪問した際に見た現状や陸前高田への訪問活動を通して感じた危惧などを述べられ、みなさんそれぞれの想いを抱きながら話に聞き入っていました。



【青森県地域同窓会】8月27日（土）八戸地域地場産業振興センター ユートリー

今年度は福祉経営学部の本間萌教授を講師に迎え、「認知症の基礎的理解～人の理解・ケアの視点から～」と題した講演会から始まりました。認知症高齢者の現状と施策、ケアをする介護者の役割について学びました。講演会後には参加者全員でグループディスカッションも行い、認知症との関わりについて勤務先や家庭での体験談を通し感じたことを語り合いました。次回、青森市での開催となる第2回東北ブロック代表者会議の詳細を確認し、総会・懇親会ともに互いの絆を強める有意義な場となりました。



【福島県地域同窓会】9月3日（土）AOZ（アオウゼ）

まず今野久寿会長より大学と同窓会の近況報告が、また、同窓会の守谷淳子事務局長からは10月29日に福島市で行われる東日本大震災復興セミナーの開催案内と協力についてお話がありました。総会後は学園専務理事である同窓会の黒川道男副会長による講演会が行われました。「大学の目指す方向と現場との接点」をテーマに、学園創立者鈴木修学上人と創立までのエピソードやこれからの大学の方向性について語られ、同窓生からは、専修制が導入される社会福祉学部や新設するスポーツ科学部について、また大学をとりまく現況についてなど、たくさんの質問や意見が出されました。交流会でも同窓生同士仲を深めました。



入試スケジュール

2017年度入試より全入試「インターネット出願」に移行します。詳細は大学ホームページをチェック！ →

日本福祉大学 受験生サイト

	入試区分	出願期間	試験日	合格発表
11月	指定校推薦入試 前期 専門高校・総合学科等指定校推薦入試 前期	11/1 - 11/8	11/13	11/18
	一般推薦入試 前期 専門高校・総合学科等推薦入試 前期 定時制・通信制高校入試	11/1 - 11/11	11/20	11/26
12月	AO入試 後期 スポーツ分野入試 中期 文化芸術分野入試 中期 一般推薦入試 後期 専門高校・総合学科等推薦入試 後期	11/28 - 12/5	12/11	12/16
1月	一般入試 前期(A方式 B方式) 社会福祉学部スカラシップ入試	1/4 - 1/25	2/3 2/4 2/5	2/16
	センター試験利用入試 前期(全学部出願型)	12/26 - 1/13	—	2/16
	センター試験利用入試 前期(5教科型 3教科型 2教科型)	1/4 - 1/27	—	2/16

持参割

出願書類の準備が済んだら願書受付会や地域オフィスに持参し、教職員と面談をします。

大学の理解を深めることができ、入学検定料10,000円割引にもなる“会って話して安心”の日福独自の出願方法です。

対象入試：一般推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試、一般入試、センター試験利用入試

願書受付会

山形会場：1月21日（土）13時～16時 山形最上オフィス

仙台会場：1月22日（日）13時～16時 [※大学HPをご確認下さい](#)

※受付会以外でも、出願期間中の窓口業務時間内はオフィスに願書を提出できます。その際は事前にご連絡ください。

東北の受験会場のお知らせ

日本福祉大学の一般入試前期日程では、全国27か所に受験会場を設けています。東北地域は下記の日程で3会場にて実施いたします。受験をお考えの方はぜひお近くの会場をご利用ください。

秋田会場：2月3日（金）ホテルメトロポリタン秋田

山形会場：2月3日（金）ホテルメトロポリタン山形

仙台会場：2月5日（日）ショーケー本館ビル

！注意！一般入試後期日程では、東北地域の受験会場は設けておりません。本学美浜キャンパス、東京、富山、松本、岡山の5会場での受験となりますのでご注意ください。

日本福祉大学 山形最上オフィス

〒999-6101 山形県最上郡最上町大字向町674 最上町立中央公民館内

電話：0233-43-9232 メール：yamagatabc@ml.n-fukushi.ac.jp

Open：火曜～土曜 10:00～18:00 Close：日曜・月曜・祝日